

講義名	対)英語多読(総合)			授業形態	
担当教員	藤岡 千伊奈	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

このコースでは、近年、全国的にも注目されている英語学習法の多読を、全国的に他大学でも導入されているオンラインの多読プログラム【X-Reading】を使用して行います。この授業を通じて、自主的に英語を読む習慣を身に付け、リーディング力の向上を目指します。多読とは、辞書なしで、日本語に訳すことなく自分がスラスラ読めるレベルの英書を英語のまま理解して大量に読む学習法です。英語が得意でない受講生は、語数が少ない本(100語以下)から読んでいきます。半期に、多読本を最低100冊(最低1~2万語、留学生の上級者は5~10万語以上)を読了することを目標とします。毎回、30~40分程度は、各自の多読状況をクラス全体で共有し、おすすめのシリーズや本の紹介、アクティビティやディスカッションを行います。残りの時間は、オンラインでサイトにアクセスして各自ひたすら読むことに集中する授業です。【X-Reading】のデジタル履歴から自分の英語レベルに応じた本を自分で選んで読んでいきます。なお、TOEICのスコアの上昇には、リーディング力の向上は不可欠となります。目標を達成して英語力を向上するためには、授業外で読み続けることが不可欠です。皆さんの前向きな姿勢・努力は成績にそのまま反映されます。

到達目標

1. 英語の本を読むことに慣れ親しみ、英語での読書を楽しむようになる。
2. 読むスピードを上げることができるようになる。
3. 知らない語彙も前後の文脈から意味を推測できるようになる。
4. 多読で、総合的な英語力(文法・語彙力・リーディング力等)を高めることができるようになる。
5. 多読を通して、異文化知識・思考力・共感力を高めることができるようになる。

*オンラインでの受講では、到達目標を達成することが難しい科目であるため、オンデマンドでの開講はできない。

提出課題

ブックレポート・課題を提出

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

授業内、及び各課題に直接フィードバックします。

評価の基準

- 1) 授業参加度・授業姿勢(授業外多読も含む) 20%
- 2) 多読量 40%
- 3) ブックレポート・課題・口頭発表 30%
- 4) 期末テスト 10%

履修にあたっての注意・助言他

- * 第1回目の授業で、大事な「多読ガイダンス」を行うので必ず出席するように。
- * テキストとしての【X-Reading】の使用ライセンスを購入せずに単位は取れません。
- * 英語の基礎力が著しく不足している学生や読んだ内容を日本語または英語で要約して書けない学生には履修を勧めません。
- * 5回欠席すると不合格となる。
- * 講義連絡を常にチェックするように。

教科書

.X-Reading 6-month subscription card. Xreading VL 1,500円 9784865390698

参考図書

その他

必要に応じて授業中に指示します。

授業計画

- 回 授業計画
- 1 Course Guidance
 - 2 多読
 - 3 多読
 - 4 多読
 - 5 多読
 - 6 多読
 - 7 多読(中間報告)
 - 8 多読
 - 9 多読
 - 10 多読
 - 11 多読
 - 12 多読
 - 13 多読
 - 14 多読口頭発表(If needed)
 - 15 多読口頭発表

* 感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止される受講者は、Zoomライブ配信授業に参加となる(オンデマンドではない)。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)		イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ: ディスカッション、ディベート		<input type="radio"/> エ: グループワーク
<input type="radio"/> オ: プレゼンテーション		<input type="radio"/> カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

* 2単位の講義では、1回の講義について4時間の自己学習が必要」とされているので、この時間を授業外での多読・ブックレポート等の課題作成に使用してください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースでは、様々なテーマを題材とした洋書を多読することで、異文化知識・英語の語彙力及びリーディング力の向上を図ることにより、卒業時に身に付けておくべきグローバル社会で必要とされる資質・コミュニケーション能力の育成を目指す。これらの能力は、希望部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「経済にまつわる情報分析の力」、人間社会学部生に求められる「社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理等」の様々なテーマに取り組みこみ・コミュニケーション能力の修得につながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ICTの活用に関しては、オンラインの多読プログラム、【X-Reading】を毎回、授業内外で使用します。

実務経験の有無及び活用

備考

- * 感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止される受講者は、Zoomライブ配信授業に参加となる(オンデマンドではない)。
- * 履修することが確実な場合、授業開始後、スムーズにアクセスするため、速やかに【X-Reading】の使用ライセンスカードを購入してください。